

## 模倣する

陽羅 義光

勉強も遊びも仕事も模倣から始まる。

芸術活動も教育活動も例外ではない。

親の、先輩の、上司の、友達の、先生の、時として赤の他人の模倣から始まる。

庄司薫の『赤頭巾ちゃん気をつけて』はサリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』の模倣、倉橋由美子の『暗い旅』はビュートル『心変わり』の模倣、村上春樹の『風の歌を聴け』はカート・ヴォネガット・ジュニア『スローター・ハウス5』の模倣。

だからと云って、盗作でないかぎり（尤も幸運にも外国作品の完璧な盗作は、言語が異なる限りあり得ないのだが）非難はされない。

何を手本にし何から影響を受け何の技を模倣するというのも、その何を選択するかには各々の個性があるのであるから（犯罪を模倣する「模倣犯」という、幼稚な個性もあるにはあるのだが）これもオリジナリティのささやかな一つであろう、とする意見もある。

【他者を糧にすることほど、より〈独創的〉なものではなく、より〈自己自身〉であるものはない。ライオンは同化されたヒツジからできている】などというヴァレリーの、より前向きな言葉もある。

模倣する、つまり真似する、つまり「真似ぶ」は、「学ぶ」の語源であるとも云われる。

学ぶ、となると、マルクス・アウレリウスの感動的な一節が残されている。

- ディオグネートスからは「つまらぬことに力を注がぬこと」
- アポローニオスからは「独立心を持つことと絶対に僥倖をたのまぬこと」
- セクストスからは「親切であること」
- アレクサンドロスからは「口やかましくせぬこと」
- セウェルスからは「家族への愛、真理への愛、正義への愛」
- マクシムスからは「克己の精神と確固たる目的を持つこと」

自分は自分で自分の信念を作り上げてきたのではなく、総てを学んで

きたのだという告白である。

マルクス・アウレリウスは、さらにこんな有名な言葉も残している。

【人に助けてもらうことを恥じるな。なぜなら君は兵士が城塞を闘い取るときのように、課せられた仕事を果たす義務があるのだ。もし君が足が不自由であって、胸壁を一人では昇ることができず、ほかの人の助けを借りればそれができるとしたらどうするか。】

模倣は、かように多くの言葉や意見に守られている。

となると、それゆえに、模倣は（必要なことではあろうが）そんなに立派なことでも、有り難がることでもないということになる。